別紙様式

平成３０年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	インクルーシブ教育の視点を踏まえた「グローバルな視点を基にした小・中・ふじのめ連携教育」の実践と検証研究
事業実施代表者名	附属札幌小　校長　高久　元　・　附属札幌中　校長　佐々木　貴子
実施附属学校名	附属札幌小学校・中学校・特別支援学級（ふじのめ学級）
事業内容 （実施内容について、1,000 字程度で記述）	現在の世界状況は、環境・経済・社会の全ての分野で深刻かつ複雑な問題が発生し、その解決策や社会のあり方が問われている。自然や環境に加え、社会的にもグローバル化が進み各国間の経済格差や地域間格差は、社会全体の持続可能性をも脅かすものとなっている。 附属札幌小・中・特別支援学級（ふじのめ学級）〔以下、ふじのめ学級と称す〕の現状としては、やはり現実社会の影響が様々な場面に及ぼされているという感は否めない。子どもたちの実態では、発達障がいのある児童生徒、不登校や保健室登校児童生徒への支援や保護者対応などの課題が少なくない。その解決に向けて、通常学級と特別支援学級との交流教育をさらに継続し、発展させていくことが必要と考えている。そのため、小・中・ふじのめの教員同士が連携し、小中９年間の発達段階に対応が可能で、且つインクルーシブ教育の視点も踏まえた実践と検証研究を進めている。 これらを踏まえ「グローバルな視点を基にした連携教育」をテーマとした実践を行ってきた。具体的には①～③のように、食育や防災教育などを窓とした「人と環境の関わり」を重視した学びや、国際理解教育やインクルーシブ教育などを窓とした「人と人との関わり」を重視した学びの展開である。 ①「人と環境の関わり」を重視した学び 食育・防災教育・環境教育・エネルギー教育等を通して、多面的・総合的な思考力や未来を予想する力や計画力、積極的に取り組む気持ちなど、周囲の人々と共に生きていくための態度や技術を、身に付けていく。 ②「人と人との関わり」を重視した学び これまで必ずしも十分に社会参加できる環境になかった障がい者等が、積極的に参加・貢献していく「共生社会」を創りあげていくためにもインクルーシブ教育の理念を基に、他者と協力する態度や人間関係を形成する力を育む。また、ＪＩＣＡ研修をはじめとした諸外国の使節や学生との交流は子どもたちにとって「生」の経験となり、異文化の理解やコミュニケーション能力の向上、他者とのつながりを尊重する態度を育んでいく。 ③「小・中・ふじのめの連携推進」にあたって 連絡進学の生徒が半数以上在籍し、９年間の育ちの過程を直に把握でき、更に小・中・ふじのめの各校舎が一続きで容易に行き来でき

	る環境は特筆すべきものである。このような学習環境を可能な限り活かしていくという意識を教職員が共有することを大切にしている。共通の課題（テーマ）でも、発達段階に応じて子どもたちの受け止め方には違いがある。そのことを踏まえ、各校種でのねらいに即して取り組み、成果や課題を共有し、整理することで連続性や系統性を意識したカリキュラムにつなげていく。また、異学年や異校種の交流、相互乗り入れ授業の実践については、児童生徒理解の深化につながっていくものである。 　これらによりグローバルな視野をもち、多様な社会の人々と共に生きるための資質・能力を身に付け、持続可能な者会づくりの担い手となる生徒の育成を図ってきた。
成果と課題 （活動の成果と課題について、500 字程度で記述）	成果は次の①～③である。 ①教職員間の連携意識の向上 　小・中・ふじのめにおける教職員間の連携のもとで３年間継続した取組を進めたことで、教師側の視点からも異校種への理解がより深まり、９年間というスパンで子どもの成長を捉える意識が醸成されている。また、年々増加傾向にある個別指導の必要な児童・生徒、保護者への対応も含めて、小中間の情報の共有を綿密に行うことができた。 ②５年間の成果報告書の完成 　これまでも異校種合同で行ってきた取組について、ねらいや価値付けを整理することで、学びの深まりにつながったと考える。また、教職員間の協働意識の高まりから、垣根を越えた意見交流を日常的に行い、新たな取組へのアイディアやモチベーションにもつながっている。 ③研究大会同日開催による地域への発信力向上 　今年度からは小学校とふじのめ学級の研究大会を同日開催にしたことで、多様なニーズへの対応が可能とることとともに、より一層の連携が進んで行くと考える。 今後の課題は、現在も行っているカウンセラーや大学の臨床心理学教授との連携も含めた「学びの支援委員会」の開催を、より組織的に進めることで、連携をより密にした支援の計画・実施をしていくことである。

今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述）	小・中・ふじのめの連携をいっそう深めるために、行事や日常の交流をはじめ、教科枠の拡大と共同学習の推進に向けた年間計画と授業内容を検討し、継続した授業実践を取り組んでいく。９年間を通じた教育課程の作成に向けて、小・中・ふじのめの研究推進委員との合同会議を開催し、方向性を確認しながら進めてきた。今後もグローバルな視野をもち、多様な社会の人々と共に生きるための態度や技能を身に付け、持続可能な社会づくりの担い手となる児童生徒を育成するためにも、組織的かつ一体的な取組は今後も継続して行く必要がある。 また、本校の取組の成果をまとめた冊子を札幌市内の公立学校に発信し、各校の現状に応じて活用いただき、また、札幌市の研修講座とのタイアップによる講師派遣や、要請があれば各校の校内研修会等に赴き、小中連携やインクルーシブ教育という課題について、共に考えて行くという視点からの助言も必要と考えている。公立学校のモデル校としてのあり方についてもさらに検討を深めていく。
事業の公表状況 （事業をＨＰで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）	冊子「グローバルな視点を基にした小・中・ふじのめ連携教育」発刊 （札幌市内小公立小中学校、全国国立大学附属学校への配付） 小学校、中学校、ふじのめ学級それぞれの研究大会において発表。 小学校教育研究大会紀要に掲載（育むべき資質・能力） 附属札幌小・中学校・ふじのめ学級のＨＰ ・4/24 小中合同体位測定 ・5/12　小中ふじのめ花プロジェクト ・5/31　小ふじのめ図工交流学習 ・6/14　小中合同避難訓練 ・7/10 平成 30 年度　教育研究大会 ・9/ 4 秋晴れの運動会 ・10/26 心を交わして ・12/21　ふじのめクリスマス会 ・12/25 学期末のあんなこと、こんなこと… ・12/ 3 命と安全を守る授業

（注）当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。